

平成25年度第2回花巻市総合計画審議会（会議録）

1 開催日時

平成25年6月28日（金） 午前10時 ～ 午前11時50分

2 会場

花巻市役所本庁舎 委員会室

3 出席者

花巻市総合計画審議会委員18名：中村良則会長、佐藤良介副会長、高橋勉委員、
宮澤啓祐委員、高橋勲委員、平賀喜代美委員、藤沼弘文委員、今井洋一委員、
小原康二委員、土岐紀一委員、大沼一夫委員（代理高橋信一事務長）、
高橋要委員、尾美裕功委員、中島健次委員、佐々木一夫委員、菅原昭造委員、
小原宏委員、岩渕満智子委員

市側：亀澤政策推進部長、八重樫総務部長、菊池まちづくり部長、高木商工観光部長、
佐々木農林水産部長、大竹生活福祉部長、出茂健康こども部長、高橋建設部長、
神山上下水道部長、瀬川消防長、高橋教育部長（代理佐藤小中学校課長）

事務局：企画調整課総合計画策定室（佐々木室長、菅野次長、瀬川主査、寺林主査、
藤田上席主任、伊藤上席主任、佐藤主任）

4 会議内容

【1 開会】

（佐々木室長） 本日の審議会は委員の過半数の出席により、花巻市総合計画審議会条例第4条第2項の規定に基づき、会議が成立することを報告

また、「花巻市審議会等の会議の公開に関する指針」に基づき、公開していることを通知

【2 会長あいさつ】

（中村会長） 長期ビジョン素案の内容について、色々な角度から自由にご意見をいただき、内容を深めてより良いものにしていくというのが本日の趣旨

中期プランについては策定途中ということであるが、成果指標の資料を見ながら、具体的にどのような事業を進めていくのか確認いただければと思う。

また、地域協議会等から長期ビジョンに対して様々な意見が出ているので、これも踏まえて、この審議会として、長期ビジョン素案について忌憚のない意見を加えてより良いものとなるよう議論していきたい。

【3 説明①】

(佐々木室長) 配布資料により、計画素案に対する意見聴取の状況について説明

【4 質疑①】

(中村会長) 事務局で各地域協議会、自治推進委員会、総合計画市民会議に計画素案を説明し、これに対する意見を取りまとめている。改めて説明を受けるともっともだということばかりであり、大きく3つに分かれると思う。

一つは、具体案がほしいということ。長期ビジョンというものの性格をどのように位置付けるかに関わると思う。これは、長期ビジョンで10年後の姿を示すというところにポイントがあり、あまり具体的なことを盛り込まず、基本的な方向性を指し示すことが基本的な役割であり、そこに具体的な方策を盛り込むことが適当ではない気もするが、それでも実現に向けてはもっと具体的な道筋があったほうが良いということもあると思う。長期ビジョンをどのように了解するか、みなさんで議論したい。

二つ目は、具体的な目標や指標を示したほうが良いという意見。長期ビジョンの中で10年後こうなってほしいということ言葉をではなく数字で示せる部分は数字で示したほうが良いのではないかという意見であった。

三つ目は、各分野への細かな意見であり、これに対して組むべき意見や補足等があったら出してほしい。

みなさんの意見はどうか。

(藤沼委員) 総合計画への意見一覧を見て、10年後どうなるかという希望や夢があつていいと思うが、方向性のある程度定めて、あまり文言にこだわらず、その年ごとに計画を決めてやるべきではないかと思う。

税収がどんどん減り、高齢者が増えていくときに、色々な企業の力を借りなければならない。まちづくりは、いろんな会社がきたとき、一緒になって、うちはこういうまちづくりをしたいのだから、こういうところを協力してほしいと企業を巻き込むことも大事だと思う。例えば、道路を作るにしても、企業側に作ってもらって寄附採納してもらうようなことも考えなければならないと思う。市のお金だけでやっていくのは無理がくる。

また、空き家対策といっても、古く朽ち果てたものがたくさんそのままになっている。早く取り壊せばいいわけだが、そうすると税金が高くなり、だから取り壊さないということをいつまでもやっている。逆に、ここは景観が悪くなるから、税金はこのままでいいから建物を壊してもらおうということを考えるなど、アイデアはいくらでもあると思う。

こんな文言はダメだなどいつまでも論議することはないと思う。

(中村会長) 今の意見のように、長期ビジョンでもあり、来年や半年先のことも分からない状況の中で、臨機応変に柔軟に対応していくということが現代の基本的な計画かと思

う。ただ、それにしても、目指す方向だけは決まっていなければ進めないわけであり、長期ビジョンは花巻のまちづくりの基本方向を定めるもので、10年間の日常的な対応は中期プランで行っていくことになるかと思う。

また、もう一つのポイントは、企業の力（役割）をまちづくりの中にもっと積極的に導入すべきとのことだった。長期ビジョンでは30ページの「地域づくり」分野に「参画・協働のまちづくり」という政策があるが、市民や企業が参加したまちづくりを進める体制というものがこの文言のなかに入っていけばとのことかと思う。

（中島委員） 前提条件の部分になるが、日常生活1年365日を考えれば10年というのは長い気がするが、まちづくりという視点から考えると壮大な計画なので、10年と設定した意味合いは何か。

長期ビジョンを見ると、10年というよりも、将来に向かって市民がずっとやっていくべき内容であると思う。例えば、人口減、世帯減、就業者減などの記載があるが、これは10年後も同じような状況が続くと考えられる中で、10年と設定した意味合いを説明いただければと思う。

また、将来都市像については、どう見ても市民憲章と同じように見える。同じようなキャッチフレーズがたくさん並んでも混乱するのではないかと思うので、あえて無くてもいいのではないか。私の所属団体も、市民憲章をひとつの旗頭にして唱和している。普遍的ないつでも使える部分が10年計画に位置付けられていることについて、説明してほしい。

（亀澤部長） 今回の計画の策定に当たり、将来に向かってどのような姿が理想なのかということを考え、市民会議の意見をいただきながら今の素案がある。ご指摘のとおり、出来上がった状態は未来目指すべきものという視点だと認識している。しかし、一定の指標を設けて将来あるべき姿に向かうためには、一定の期間をひとつの区切りとして検証していく必要があるだろうということがあり、これまでの10年スパンで物事を見て改定していくというものも含めたうえで10年という選択をした。ご指摘のとおり、掲げてある内容については、特別な事情がない限り基本的に目指していく姿と理解している。

都市像については、これまでも市民憲章もあり、そのほかにまちづくりの将来像という視点で別なものとして設定していた。今回、ご議論いただきながら案としてお示ししたが、ご指摘のとおり市民憲章に謳われている内容に近いというところがあり、ご意見も頂きながら今後の検討課題としたい。

（中村会長） まちづくりの目標ということで長期ビジョンでは将来都市像を設定したことだと思う。市民憲章は市民一人ひとりの心のなかに置いておくもの。重なる部分はあるが、まちづくりということに関して、特に将来都市像というかたちで目指す姿をみんなの中でひとつの言葉にまとめましょうということだと思う。

(藤沼委員) 土地利用について考えるとき、花巻は大半が農地であり、一番大きいのは農地であると思う。農業を高付加価値化し近代化していこうとすると、農業者はいなくなる。工場でも誘致しようとする、と、どんどん人が減っている工場がきている。そのようなことを考えた時、農業人口はそのままにして、農業の粗収入を多くしてやっっていこうとしても絵に描いた餅になる。専門の農業者はこれぐらい減るが、花巻の農業収入はこれぐらい増えるというようなことが具体例ではないかと思う。減った農業者を花巻ではどのように考えていくのかということが、文言に縛られるよりも本当のまちづくりではないか。農家は高齢化して後継ぎがないと言っている時、その後継ぎをどうするかというようなことを考えながら、一つは農業というものを基準に花巻はこう考える。産業は、誘致企業としては10年のうちにこんな会社が何社くらい欲しいとか、若い人の就職のためのものがこれくらい欲しいとか、こんな程度でいいと思う。

また、まちづくりにおいて、中心市街地がダメになるのは当たり前の話である。投資をしてやっっていこうとすれば、安い土地でいいものをやる。それが郊外店であり、中心市街地はダメになってきたが、空き店舗が増えてきたときに単価が下がってきて、新しい店が出てくる可能性がある。このようなことで新しいまちづくりができるのではないか。

いつも立派なことを書くのではなく、本当の現実を見ながら10年後にはこんなまちにするのだと。その代わり1年後は進捗率が鈍化するかもしれないので、これをみんなで考えていこうということをやっていったほうがいいと思う。

(中村会長) 今の意見は、長期ビジョンの文言に改定の余地があるのではないかと、また、あり方が少し違うのではないかという趣旨だった。

(土岐委員) 私も小さいころから花巻のまちに住んでいたが、当時栄えていたのは、まちの中は店と一緒に居住施設になっていたから。ところが、ドーナツ化現象で家は郊外へ行ってしまった。

農業もしかり。今後の農業はどうなるんだと。生産は維持していくがやる人が少ない。

(今井委員) この長期ビジョンの素案は市民会議の提言を基に組み立てられているわけだが、色々な問題が提起されているにもかかわらず、その問題がどこに取り込まれているのかよく分からない。提言を基に素案を組み立てた時、どこのポジションのどういう人が問題を注記したのか。

前回は問題になったが、全てが総花的になっている。したがって、10年計画を立てれば市民憲章と同じくなりぼやける。総花的というよりも、ことの重要性が取りこまれているのではないかと。「本市を取り巻く社会情勢と課題」や「地域ビジョン」が語られているが、こういうものを具体的に優先順位を持ってどのポジションで、どういう方々が素案を策定してきたのか過程をはっきりしてほしい。

それが今度は予算組みにも関わってくると思うが、資金化されるときに中期に予算がどのように反映されていくのかというイメージがないと本格的な議論ができないのではないかな。

(高橋勉委員) これからの農業をどうするのかという作戦を考えているが、集落単位で地域の農業をどうするのかということを考えようとしている。水田中心、畜産中心のところがあるが、そのような中で女性も高齢者も若い方々も入って「集落ビジョン」我々の地域の農業をどうするのかというのを、不耕作地も取り込みながら考えている。そういうなかで、地域の農業、土地の利用を守らないと農村はダメになる。また、集落化すると高齢者が余ってくるが、集落の中で経営体を作って高齢技能者の技術を生かし、集落全体で農業を守ることを考えている。ほか、次のステップで、農産物に付加価値をつけることを徐々に考えている。

(中村会長) 農業に関しては花巻の基幹産業で、一朝一夕ではなかなか難しいが、このあり様はまちづくりのうえでは根本問題だと思う。

ただ、長期ビジョンの中で、この方向に農業を持っていくとはっきり言うべきなのか、それともそれぞれの産業分野があるわけだから、それぞれのあるべき姿はこれであり、肉付けは中期プラン等で行政に委ねるというように考えるべきなのか。すぐに結論の出ることではないと思うが、最終的な答申に向けて議論し、意見集約できればと思う。

(佐々木室長) (今井委員の質問に対し) 今までの策定経過としては、事務局で部会等を設置し検討してきた。平成24年度に市民会議の皆様にご議論をいただき、提言書をまとめていただいた。それらを基に、最大限尊重してたたき台を作り、市の内部の政策部会、施策部会でまとめ上げたものを只今皆様に素案としてご案内している。

(今井委員) 中心は政策部会でやってきたとのこと。そのなかで、本市を取り巻く社会情勢や課題は十分に考慮されてきたことか。問題提起の優先順位をどう捉えてきたのか。それがなければ議論にならないのではないかな。

また、計画の中に地区ビジョンが入っているが、まちづくりの素案の中にどう取り込まれてきたのか、素案に対する意見が今日説明されたが、最初にこの意見が出されなければならなかったのではないかな。順序が逆だったのではないかな。最初に問題を抽出する仕方に若干問題があったのではないかなと思う。

【5 説明②】

(佐々木室長) 配布資料により、成果指標の設定について説明

【6 質疑②】

(中村会長) 今説明いただいた成果指標についてご議論いただきたい。

成果指標は、まちづくりを行っていくときに具体的な施策の裏付けを持って、こういうかたちで進めていきたいという目標になる。こういう目標の設定でいいのか、あるいは別の観点があり得るのではないかなど、お気づきの点があればご意見をお出しいただきたい。

(中村会長) 単純に思ったことであるが、政策2-4で「消費者トラブルの件数」という指標があったが、消費者トラブルの件数が減ることがいいのだということになっているが、これが正しい見方なのだろうか。トラブル件数が増えても、それに対応すればいいことだから、この件数が減ることがそれほど大きな問題ではないのではないかという気がする。

(藤沼委員) 先日事故があつて救急車を呼んだら20分くらいかかった。その後救急車が止まって動かず、何をしているのかと聞いたら受け入れ先を探しているとのことであった。来る間にいくらでも連絡が取れたはずで、事故の状況もわかっていたはず。そういうものをなくすとか、いい加減な状態で救急車を呼ぶ人もいるので、その時は嚴重注意するとか、いらないことをやらない。そういうのがひとつの指標ではないかと思う。

それから、空き巣の件数があったが、空き巣はどこで入るかわからない。それよりも空き巣が入らないまちをこのようにつくりますというようなこと目標に掲げるべきではないかと思う。調査としてはいいかもしれないが、そういうことに観点を置いてやっていただきたい。

(岩淵委員) 今の意見に関連して、以前、救急隊員に聞いたことがあるが、搬送すると、なぜこのような人を連れてきたのかと病院からお叱りを受けることがあるとのこと。しかし、救急隊員は要請がかかれば行かざるを得ないということがあり、藤沼委員の意見はとても大事なことではないかと思う。

(藤沼委員) 何%よくなったという話ではなくて、「具体的にこういうふうによくなりました。」というのが、市民には見やすいのではないかな。

(中村会長) 数字のとはまた少し違った、成果の定性的な指標というか、「こういうかたちで改善されました。」というものを設けるといいのではないかという意見であった。事務局のほうでお考えいただければと思う。

(佐々木委員) 「子育てしやすいまちだと感じる市民の割合」という指標がある。子育ては地域づくりの基本ではないかと思う。平成23年度の実績が52.6%で、平成35

年度の目標が66.6%という低い数値を並べているが、どこを根拠に作ったものか聞きたい。

(出茂部長) 指標について、市民アンケートでとっており、実際に子育てしている方、していない方合わせて約2000人聞いている。今までの統計上では、52%、53%というところだった。これまでの流れを見て、平成35年度までには66.6%までは市民の方々が子育てしやすいと思えるようにもっていききたい。

(中村会長) 佐々木委員の意見は、数値は数値で分かるが、数値でいうなら100%の目標にするべきとのことだと思う。しかし、実際には100%には上げられないから、藤沼委員がおっしゃったように、数値ではない別の指標が必要という気がする。市民の方々がそれぞれの分野で感じる喜びや満足感を把握する手立てはないものかということだと思う。

(佐々木委員) 簡単にいえば、この数値はバラバラで、寄せ集めの成果の指標になっているのではないかと思う。果たしてどこを根拠にしているのか、統計的な数値ではないのではないかと若干心配している。

(中村会長) 行政のやることだから、数値で把握できるものは、他市との比較から共通の統計をとるほうが分かるということはあると思う。しかし、それでは個々の満足感や市民の生活の充実度というものは測れないので、人々の気持ちを素直に反映できる何か別のかたちで評価する取り組みと指標があってもいいのではないかという趣旨だろうと思う。そういうかたちで検討いただければと思う。

(今井委員) 観光関係で「おもてなしに満足した観光客の割合」とあるが、ここでいうおもてなしとはどういう意味か。

(高木部長) 観光立市イーハトーブ構想にも出てくるが、基本的にすべての面でのおもてなしと認識している。旅行事業者はもちろんのこと、観光ボランティア、旅行者が触れ合う市民、お泊りいただく宿、利用する公共交通などを総体的にとらえたものがおもてなしであると考えている。

(岩渕委員) 将来の花巻市がこうあってほしいという目指すものは大事であると思うが、現状の市・地域がどうなっているのかを知らなければ、目指すものが遠くなってしまおうとを感じる。皆が現状を知るきっかけになることも大事なことではないかと思う。

【7 協議】

(中村会長) 長期ビジョン素案に対し、全体的観点からご意見・ご質問をお受けしたい。

(小原委員) 市民会議から参加しているが、どちらかといえば市民会議は理想を語る会であり、その後さまざまな意見を頂戴しているのも当然なのかなという感想である。

その中で、市として人口減少を止めたい等の目標を計画に掲げることによって、各種関係団体の協力を得やすくなるのではないかと。

また、私も兼業農家であるが、効率化・生産性を求めれば生産者は減少していくと思う。そこであえて手間をかけても良いものを作っていきというような目標があれば、それこそが花巻の目指す姿ではないかと感じるので、そのような切り口があれば良いと思う。

(中村会長) 計画の中で人口や産業のあり方について触れているが、産業構造が変化し、仕事のあり方も変わってきている中で、今の花巻の現状を踏まえたうえで、各産業分野でのバランス・重点配分をどのようにとっていくかは重要なことだと認識している。

(佐藤副会長) 将来都市像について、市民会議の提言では「温かい都市」としていたものを、わざわざルビをふって「^{あつたかま}温か^{まち}都市」としている。あまり馴染みがなくピンとこないのだが意図は何か。

(菅野次長) 「あつたかいごはん」のようなイメージで直したものだが、人それぞれ受け止め方が違うと思うので、ご意見として承る。

(土岐委員) 将来都市像について、27地区でそれぞれの将来像を掲げているが、それらを包含したようなものにはできないものか。

ほか、「歴史と文化で拓く」という表現があるが、「拓く」という言葉は意味が多いため、分かるようで分かりにくい。もっと分かりやすくするために、個人的に考えてきた案もあるのだが。

(中村会長) 将来都市像については非常に難しく、市民会議でも検討に丸一日費やした。この手の話はきりがなくなってしまうので、次回検討することによろしいか。

(平賀委員) 市民憲章と将来都市像とのつながりについて、市民の精神的なものとまちづくりの将来像との区分ということだが、非常にもったいないと感じる。市内には市民憲章を推進している団体も多いので、将来都市像とのつながり・関連性をもっと明確にしたほうがよいのではないかと。

また、現代は大人も子供も自分勝手に一人よがりであり、ボランティア精神も少ない。

こういった状況に対して、市民がお互い助け合い、思いやりを持ち、ボランティア精神を持つことを、将来都市像によって呼びかけるものになればよいと思う。

【8 閉会】